



国東市長 三河 明史

就任以来、市民の皆さんの声をお聞かせ願いたくて「市政懇談会」を開いています。今年で3年目を迎えた懇談会も、昨年度は市内16会場で開催し、今年度も10月24日までに10回開催しました。(12月2日終了予定)

切実な要望もあれば、貴重なご提言もいただいております。今月号から、その中で実現できたことのいくつかをお知らせしていきたいと思えます。これからも、各地域で市政懇談会を開催していきます。ぜひ、お越しいただき貴重なご意見をお聞かせください。

## ●●●●●●●●●● 要望のあった危険箇所ふたに蓋を設置しました ●●●●●●●●●●

【市民のご意見】(8月22日 武蔵西地区 市政懇談会)

麻田丸小野線の改良工事について。上麻田公民館の10 m西から旧道に入る道があります。旧道を行くと700 mぐらいで新しい道路に接続します。10年間側溝の蓋がありませんでしたが、最近蓋を設置してくれました。ありがとうございました。

要望ですが、旧道と新道の間水路があり、旧道側の柵の蓋がありません。子どもが乗る自転車や歩行者などが落ち込むと危険ですので、蓋をかけてほしいです。



設置された蓋

【市の対応】(担当部署:武蔵地域産業建設課)

後日、担当職員が現地を確認しました。危険性があり、緊急に設置する必要があると判断したため、厳しい財政状況ですが何とか予算を捻出し、過日グレーチング蓋を設置しました。

すべてのご要望にお応えしたいのはやまやまですが、ご承知の通り、市の財政は厳しい状況が続いています。そのなかでも、市民のみなさんのご意見に耳を傾け、でき得る限り市政に反映しようという思いは変わりません。

### 流鏝馬

## 市長日記

10月15日

がつ、がつ、がつ、と気が逸るのか、緊張からか、馬が前脚で地面を蹴ります。もみ烏帽子直垂姿の凛々しい若者が、少し緊張した面持ちながら馬上にすつくと姿勢を正し、両足で馬体を締めます。やあつ、と気合がかり、馬が疾駆を始めます。若者は、疾走する馬上で弓を引き絞り、的に狙いをつけます。気合を込めて矢を放つと、見事に的に命中しました。すかさず、参拝者から歓声と万雷の拍手が沸き起こります。若者は、息つく暇もなく、次の矢を弓に番え、弓を引き絞り、次の的に狙いをつけ、矢を放ちます。矢は、わずかに的を外れました。参拝者からは、ため息とも悲鳴ともつかぬ声がかかります。

若者は、再び神社の楼門前に馬を進め、騎乗したまま、杯を飲み干し、拝礼して二走目に備えます。三つの的のうち、一走目は一番目と三番目の的を、二走目は一番目の的を射て、これを一回繰り返して、計四回走って六本の矢を射るのです。的射に続いて、両手に日の丸の扇を持ち、馬上から投げ、次に胸に抱えた箱から紙吹雪を両手で撒きます。流鏝馬は終わりました。大役を無事に終えた射手の若者は、ほつとしたような爽やかな笑顔が浮かべます。参拝者からは、若者に惜しめない拍手が送られます。

昨夜の国見町榊来の岩倉八幡社でのケベス祭りに続いて、今日は、伊美の伊美別宮社で流鏝馬が行われました。一年を通して、古くから引き継がれた祭りが行われている国東ですが、秋になると五穀豊穡を祈るのか、色々なお祭りが行われます。正に国東は、有形無形の文化財の宝庫なのです。

参拝者に披露する流鏝馬は、大祭の神事、餅まきの後、午後4時頃から行われるのが通例ですが、この日は雨になるかも知れないということで神輿の神幸を止め、早めに流鏝馬が行われました。流鏝馬の射手に選ばれることは、大変名誉なことであり、選ばれた射手は、10月9日から13日の間は自宅にこもり、精進潔斎の生活をしながら流鏝馬に備えるそうです。

こういった古来からの伝統にも過疎化の波がひたひたと追ってきており、諸役の方々に跡取りの不在や、神輿を担ぐ人たちにも若い人が不足するなど深刻な状況になってきているようです。そういう厳しい状況の中でも、地域の方々は懸命に伝統を守ろうと頑張っておられるのです。この日も、流鏝馬の後の餅まきに小さい子供からお年寄りまで多くの人達が興じ、無事に祭りが終わりました。